

| | | | | | |
|---------|-------------------------|----------|-------------------|------|---------|
| 科目分類 | 一般教養科目 科学の基礎 | | 開講時期 | 1年 | 前期 |
| 授業科目 | 環境学 | | | | |
| 選択／必修 | 選択 | 単位数(時間数) | 2単位 | 30時間 | 授業形態 講義 |
| 担当教員 | 喜多 義邦 | | | | |
| メールアドレス | y-kita@tsuruga-nu.ac.jp | オフィスアワー | 火曜日 16時40分～17時40分 | | |

| | | |
|---------------|--|---|
| 授業目的 | <p>人の生活は常に外環境との密接なかかわりの中で営まれている。すなわち、環境は生命の維持に欠かせないものであり、また、時として健康破綻招く引き金にもなる。本授業は、人と環境・生態系との相互作用として生命が維持されることを理解し、環境保全の意義について理解を深めることを目的とする。</p> | |
| 授業概要 | <p>地球の構成を物理的、化学的、生物学的に解説し、我々が住む環境の概要を理解する。また、人口問題、食糧問題、環境汚染の現状を示し、それらの問題を理解するために必要な知識や技術を解説する。</p> | |
| 授業内容 | <p>第1回 地球の構造と生物圏</p> <p>第2回 環境の把握とその評価</p> <p>第3回 人間と環境・食糧</p> <p>第4回 水と健康</p> <p>第5回 水環境</p> <p>第6回 大気環境</p> <p>第7回 土壌環境</p> <p>第8回 化学物質と健康</p> <p>第9回 地球の危機1</p> <p>第10回 地球の危機2</p> <p>第11回 地球の危機3</p> <p>第12回 放射能と健康</p> <p>第13回 生物多様性1</p> <p>第14回 生物多様性2</p> <p>第15回 生物多様性3</p> | <p>大気、水、土壌の構成、生物圏とその多様性</p> <p>環境を認知する方法、そして評価する方法</p> <p>人口と食糧問題</p> <p>水の生理的役割、飲料水の確保</p> <p>水の安全を守る</p> <p>気象と大気汚染</p> <p>生態系にとっての土壌の役割</p> <p>リスクとしての化学物質</p> <p>温暖化</p> <p>オゾン層の破壊</p> <p>酸性雨と黄砂</p> <p>身近な放射線と健康</p> <p>生物の多様性と進化</p> <p>生物多様性の危機</p> <p>微生物と健康</p> |
| 教科書 参考書等 | <p>参考書：新環境と生命（三共出版） ：シンプル衛生公衆衛生学 2019、鈴木庄亮、久道茂監修 南江堂 その他：必要に応じて参考資料およびスライド（パワーポイント）等を用いる。</p> | |
| 成績評価 基準・方法 | <p>評価はレポート提出（100点）で評価する。</p> | |
| 履修要件 | <p>特になし</p> | |
| 留意事項 その他 | <p>特になし</p> | |